



基本的に垂直に植物を繁茂させることが必要ですので、実現させるための工夫に費用が掛かることも否めません。

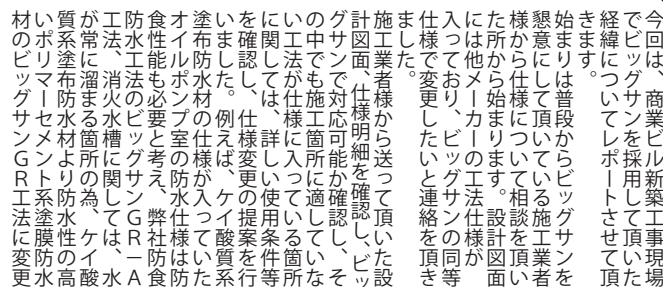
使用する植物の生育特性やメンテナンスのことも熟考して、設置を検討する必要があるために、屋上が目だから壁面にとか、見た目が良いから壁面という安易な導入は避けるべきものです。

大日化成の壁面緑化は、吸着させるためのパネルやネットなど、費用や設置の高さに応じた幾つかの工法をご用意しております。

※壁面緑化は首都圏のみでのお取り扱いとなります。お問い合わせは東京支店までお願いします。

大日製品現場レポート

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



する提案をさせて頂きました。

その後、打ち合わせを行いながら、設計事務所、元請業者向けに説明する為、原設計と変更後の工法の比較、資料等の作成を行い、現場の事務所を訪問し、元請業者の担当者に原設計の仕様と同等以上の性能を有する工法であることの説明、原設計から仕様自体を変更した箇所に関しては変更しなくても必要があるのかの説明をする必要がある。設計事務所、元請業者から設計事務所からも承認をもらい、施工に至りました。

今回の様に、施工業者様と協力し原設計から変更で自社工製品のビッグサンを施工してもらうには、仕様の変更の為の資料作成等、大変な事もありますが、実際に苦勞した資料等で納得してもらい、変更が認められて材料が出荷になったときはとても嬉しい気持ちになりました。

その他、同等、変更仕様と比較資料を作成するうえで、大日化成社内でも、上長、技術部員とも相談、打ち合わせをする事で、より良い仕様提案が出来たのではないかと考えます。

今後、大日化成社内一丸となり、よりよい製品、仕様の提案等が出来ればと考えております。

それには、施工業者様をはじめ色々な方の協力が必要になる場面があると思いますが、今後、大日製品を宜しくお願い致します。

米ソ冷戦の象徴の一つである宇宙開発。1969年に月へ到達した人類ですが、火星有人探査が計画される中、宇宙ではなく地球上に未踏の地があります。それは海洋です。

日本一の高層ビル、あべのハルカスの高さは300m。世界一の高層ビルは800mを超えています。

しかし海に潜ることは水圧の関係で100mでさえ困難な状況です。1979年JIMスーツというダイビングスーツ型の潜水装置を使い、女性

初で水深375m迄落つたのが米
国海洋学者シルビア・アールです
このドキュメンタリー映画は海洋
破壊の状況を訴えるものではありませんが、シルビア・アールの半生も描かれており、ドラマを見るような楽なスタイルで鑑賞できる作品になっています。

冒頭、「酸素の大部分は海で作られている。二酸化炭素の大半も海が吸収してくれている。人類は海がなければ生きてはいけない。もしこの海がなんらかの影響で干上がってしまうと人類は絶滅しかねない。見た目に海があっても海を

ります。「潜っている間に魚を一匹も見なかった。この50年で海は大きく変容した。子供の頃に魅せられた海は変わり果ててしまった。」と語っています。

海洋油田の事故による原油の大量流出や、核開発競争での水中爆破実験等の他、一時期はゴミの海洋投棄が普通に行われていたことなども原因とされています。海が汚れても自然に浄化されると思われていた時期もありました。

海を汚し、地球の循環システムに毒を注ぎ、結果として多くの海洋生物

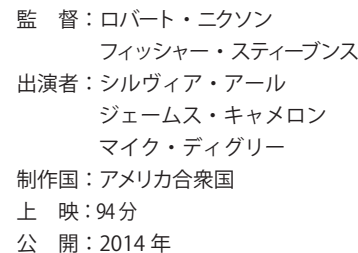
現在、世界のサンゴ礁の半分は
まだ健康な状態です。すべてを
50年前の状態に戻すことは不
可能でしょう。しかし人類一人
一人が何かに行動を起こすことが
重要だと考えさせられました。

本作品は Netfix で鑑賞
可能ですが、ドキュメンタリー
映画としては珍しく日本語吹き
替え版になっていますので、字
幕が苦手な方でもゆっくり鑑賞
できると思いますので、機会が
あれば是非ご覧になってはと思
います。

映画で学ぶ 環境問題

ミッション・ブルー

原 題：MISSION BLUE



人類が生き長らえる要素には海と密接な関係がある事を忘れてはいけない。海が汚染されていても海洋生物が死滅しても、見た目には海が存在しているので気付かないだけなのだ。」と伝えています。

の命を奪っている現在の状況がこのまま続いた場合には50年後にはもう取り返しのないところまで行くことは確実です。しかしシルビアは、「今ならまだ間に合う。希望を捨てず、今出来ることを地道にやって行こう。」と行動を起こします。

2009年にはNGOミッションブルーを創設し、世界の海に海洋保護区（HOPE SPOT）を指定し、2030年までに海洋の30%が保護されることを目標としています。

作品中でも海洋保護を行った結果、少しずつ環境が戻って来ている事例も紹介されています。



●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代) / FAX：06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL：03-3436-3801(代) / FAX：03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



次号も
お楽しみに

URL : <https://dainichikasei.cp.jp>